

# 熊野権現

〇〇権現や  
権現堂という名のつくものがあ

扇風機

閉まってみたら

昼暑い、

お存じ

# 鳩摩羅什

『阿弥陀経』を漢訳

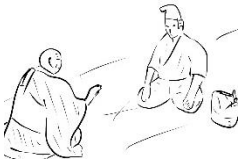
した鳩摩羅什(三四

四〇四一三、一説

ります。これは、仏教が日本に伝来し、日本古来の神々を包括する形で考えられた思想から始まりました。日本古来の神々は、仏や菩薩が変化して現れたものであるという考えです。

和歌山県の熊野も平安時代に、熊野権現として仏教に取り入れられていきました。本宮の家津御子神の本地は阿弥陀如来であると考えられました。

さて、この熊野権現は親鸞聖人の御伝記にも登場する有名なエピソードがあります。常陸の国に平太郎という人がいました。親鸞聖人の教えをよく聞き、念仏を大事にしていました。平太郎は領主と共に熊野詣に参る役目を授かりました。平太郎は悩みます。念仏を大事にして、京の親鸞聖人を訪ね相談しました。すると、「熊野権現の本地は阿弥陀如来です。領主の命でいくのだから構いません。神を軽視せずに、念仏を大事に。」と答えられ、平太郎は熊野詣にいきます。その後のエピソードは報恩講で...



こんなところに

# 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。



三五四〇〜四〇九のご紹介です。彼はインド人の僧侶であった父と亀茲国の王族である母との間に生まれ、七才の時に母と共に出家しました。彼は始め、カシミールにてアビダルマを学びました。国に戻ると大乘仏教を説きます。母がもう一度一人で仏教を学びにインドへ行く際に、鳩摩羅什に言いました。「仏教の深い教えを中国に伝えなさい。それはあなただけができることです。」鳩摩羅什は「私は彼らにつたえることができるならばいのちをも惜しみません。」といい母は安心しました。三八四年、亀茲国に進軍した前秦の將軍呂光によって捕虜となり、長安に連れて行かれる途中で前秦が滅びます。呂光は涼州で拠点を構え、鳩摩羅什は十五年間、涼州の地に幽閉されました。しかも、呂光によって女犯を強要され、破戒僧となつてしまいます。人間の醜さと戒を破つた自らの愚かさを深く自覚した時期でした。この経験はその後のお経の訳に大きな影響を与えます。四〇一年、前秦の残党を滅ぼした後秦の姚興によって長安に迎えられ、『法華経』『維摩経』『阿弥陀経』などの多くの経典や仏教解説書を漢訳しました。彼なくして今日の日本仏教はないのです。